

エスエスモール工法での 小立坑発進・小立坑到達への取り組み

キーワード

小立坑発進、泥濃式推進工法

堤川 和洋

TSUTSUMIKAWA Kazuhiro

ジオリード協会正会員

丸岩推工(株)関東支店工事部長



1. はじめに

下水道人口普及率が80%に近づいてくると、都市部においては、施工済物件への接続や、既設埋設物が錯綜し、立坑の設置場所が限定され、小スペース施工が要求されるのは当然である。また、50年以上前からある住宅地域では道路幅も狭く、標準的な発進立坑の築造が難しくなる。幹線道路近辺でも交通量が多く、複数の車線を通行止めに出来ない為、 $\phi 3,000\text{mm}$ 程度のケーシング立坑からの発進が要求されてきた。

本稿では、このような環境条件で設計された施工実績を報告する。

工事場所：埼玉県行田市緑町付近

推進工法：泥濃式推進工法

呼び径：800

土被り：3.9～4.6m

土質：シルト～腐植土混り粘土質シルト

N値：0～1

地下水位：GL - 0.8～1.2m

その他：地下水中にメタンの爆発限界濃度5.0%より高い溶存ガスが含まれているため、可燃性ガスに対する安全対策を実施した。

2. 施工事例-1

2-1 特殊条件下での発進

本工事は、埼玉県行田市（主要地方道 行田・東松山線）発注の呼び径800の鉄筋コンクリート管を泥濃式推進工法により増補管を敷設する工事である。

工事地区の主要道路部で交通量が多く、本線での施工が出来ないため、発進立坑は $\phi 3,000\text{mm}$ ケーシング立坑を構築し、道路形態から挟角 $69^\circ 47' 13''$ と鋭角二方向に発進することになった。

工事名：行田市遮集幹線増補管建設その2工事



図-1 平面図